

愛知インカレ 2005 で大活躍した京都大学・日本女子大学。エース大西と石山がミドル種目も優勝をもぎ獲った。

2006年3月11日 愛知県岡崎市  
インカレ2005 ミドル種目



フィニッシュする大西康平(京都大学)

一方、秋のインカレロングを制し、この春のインカレミドルでも優勝最右翼に挙げられていた高橋雄哉(図書館情報大学)はまさかの予選落ち。予選の6番コントロールの致命的なミスに沈んだ。図書館情報大学の最後の煌きを見ることはできなかった。

東北大学の永井の7位までを含めると、中九四学連以外すべての地区学連の選手が上位に押し寄せている。インカレは大学生日本一をかけて競い合う場であることが実感できる結果となった。



最後まで仲間を信じて声援を送る

## 男子入賞者の言葉

1位 大西康平(京都)

前半から体力的に厳しいレースだった。ミスを抑えてさいごまでガマン

して走った。レース前、いろんな人から声をかけていただいた。そのおかげで優勝できたと思っている。

2位 茂木亮彦(東京大学)

後半になるにつれて自分でもいいレースができた。まさか自分が2位になれるなんて思わなかった。とても嬉しい。

3位 今井直樹(早稲田大学)

中間ラジコン前に2分前の小山くんに追いつき、楽勝で優勝できると思った。その後現在地口ストをしてしまい悔しさが残った。来年からはインカレに出られないが、その先を目指してがんばりたい

4位 藤沼崇(新潟大学)

前半耐えて、後半から乗ってきたところでスピードを出した。

5位 櫻木伸也(静岡大学)

前半を耐えて走った。後半簡単だと思った。4年で最後の個人戦で入賞できてすごく嬉しい。

6位 平岡雅芸(金沢大学)

しっかりコンパスを振って、淡々とこなしました。入賞できて感無量です。

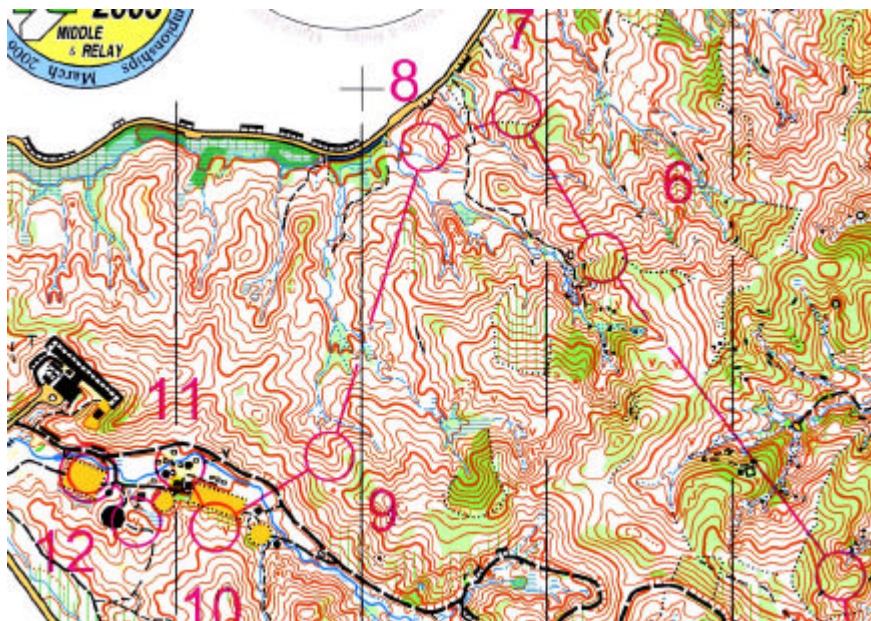
## インカレミドル 2005 男子成績

1 大西康平	京都 3	0:26:50
2 茂木亮彦	東京 2	0:26:53
3 今井直樹	早稲田 4	0:27:07
4 藤沼崇	新潟 3	0:27:20
5 櫻木伸也	静岡 4	0:28:04
6 平岡雅芸	金沢 4	0:28:16

## 大西(京都)気迫の優勝

最終ランナー・早稲田大学の今井直樹がフィニッシュラインに姿を現した。しかし僅かに及ばない。大西康平(京都大学)のミドル種目優勝が決まった。2位との差はわずか3秒。3位との差もわずか17秒という大接戦だった。

今回ミドル種目で優勝した大西だが、秋に行われたインカレロング種目では3位だった。しかしそのときから、「春は優勝します」と絶えず強気の発言を繰り返してきた。有言実行。その気迫が今回3秒差の優勝を呼び込んできたかのようだ。



男子選手権決勝コース後半。会場は愛知世界選手権2005でも使用した野外教育センター。今井直樹(早稲田)が7番コントロールで痛恨のミス。これが勝負を分けた。

## 日本女子大学が圧倒

インカレミドル 2005 女子成績

1	石山佳代子	日本女子 4	0:29:22
2	稲葉茜	筑波 2	0:31:0
3	朴峠周子	日本女子 4	0:31:25
4	井手恵理子	日本女子 2	0:31:41
5	橋本陽子	日本女子 4	0:33:44
6	峯村綾香	奈良女子 4	0:34:33

速報ボードの上位に名を連ねたのは、日本女子大学。上位 6 名の入賞者のうち、なんと 4 人が日本女子大学となった。予選・決勝方式のミドル競技においてここまで勝ち進んで行ける日本女子大学の強さは何なのか。

「目標はリレー種目の優勝」マイクが向けられるたびに彼女たちは言う。リレーの連覇を目指して力を伸ばしてきたその結果がミドル種目においても発揮されたのだ。



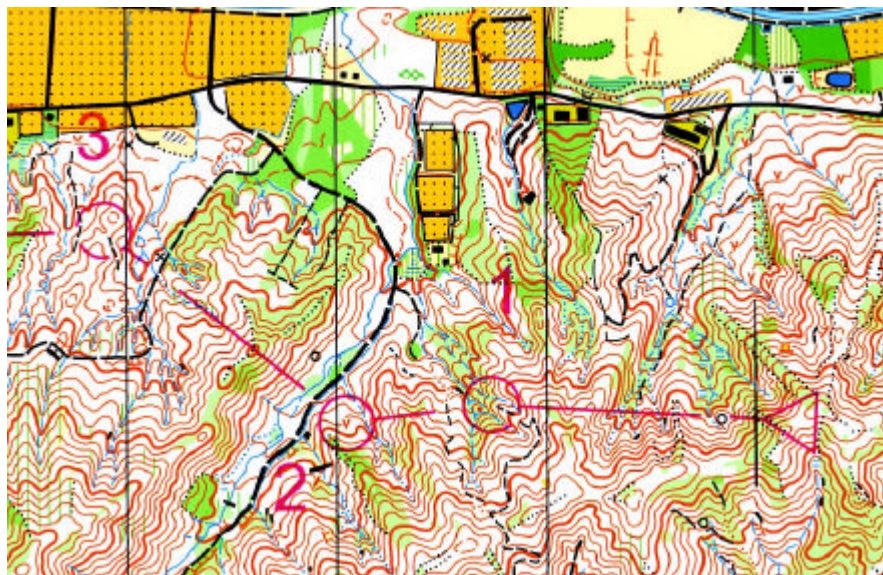
石山佳代子（日本女子大学）優勝の走り

## 女子入賞者のコメント

1 位 石山佳代子（日本女子大学）

午前中の予選ではミス多く思い通りのレースができなかった。決勝に向けてムダな考えをせず、集中して走ろうと思った。

決勝では 1 番コントロールに向かう途中、別の尾根に乗りそうになったが自分のレースができた。



男子選手権ミドル予選のコース（前半）。急峻な地形を使用して行われた。ワンミスが大きなタイムロスに繋がる。コースレイアウトの苦労が偲ばれる。

団体戦への思いが強く、ミドル競技では入賞ができれば良いと考えていた。優勝が決まったときは信じられなかった。

2 位 稲葉茜（筑波大学）

ミスもしたけど、楽しく自分らしいレースができた。もっと上手になるようにがんばりたい。

3 位 朴峠周子（日本女子大学）

これまでの取り組みに対して評価できる部分と、課題がみえたレースだった。これからオリエンテーリングを続けてゆく上で忘れられないレースとなった。

4 位 井手恵理子（日本女子大学）

4 年生と最後のレースができるというところでがんばって走った。

5 位 橋本陽子（日本女子大学）

表彰台にいることが信じられない。

秋のロングよりひとつ順位が上がったのがよかった

6 位 峯村綾香

決勝前半に 2 分前の同じ大学の森澤さんに会ってあせってしまった。

## 難しかった？愛知のテレイン

昨年度のインカレ個人戦ではロング・ミドルの 2 種目で優勝し、今年度もインカレロングを制した原直子（東京女子大学）は今回のインカレミドルも優勝の筆頭候補に挙げられていた。

しかし結果は決勝の 5 番コントロールで失格。仮に失格が無ければ、1 位タイのタイムを叩き出していただけに残念な結果となった。

原だけでなく、全般的にミス率も高く、荒れたレース展開になった。世界選手権が開催された愛知の森は、難しく、そして厳しかったようだ。

（木村佳司）



表彰台を埋めた日本女子大学（橋本/井出/朴峠/石山）